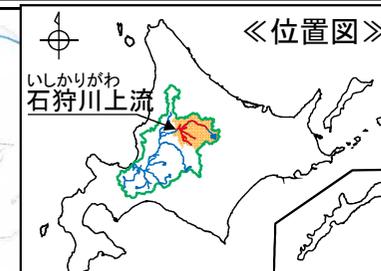
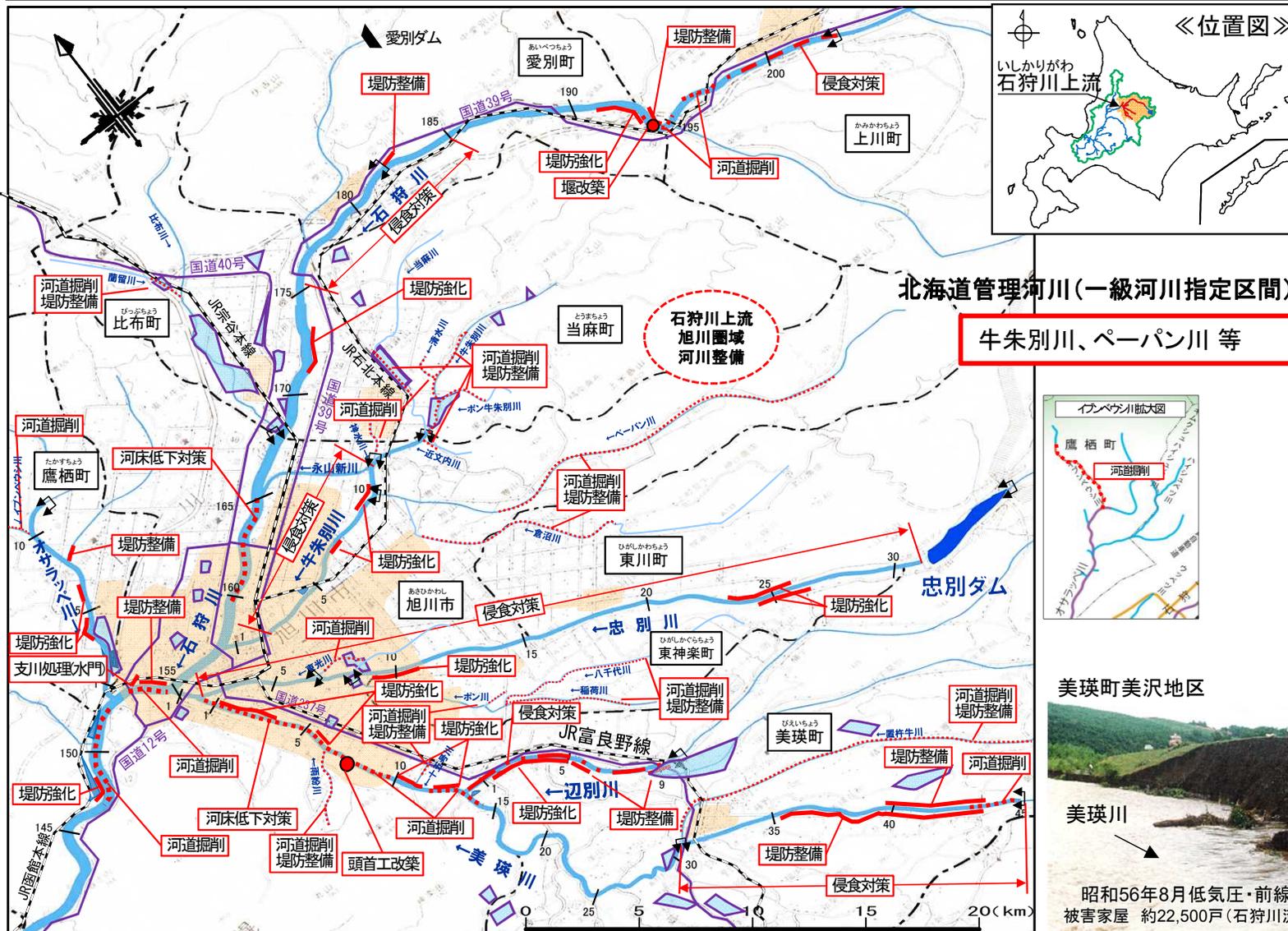


石狩川（上流）水系流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】（案）

～日本最北の中枢中核都市、旭川都市圏を洪水被害から守るための治水対策を推進～

第1回 石狩川上流流域治水協議会
資料-4

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、石狩川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、石狩川等の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和56年8月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

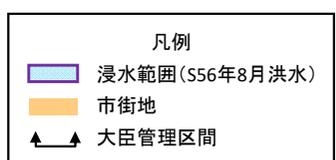


■河川における対策
対策内容 河道掘削、堤防整備、河床低下対策、侵食対策、頭首工改築 等

■流域における対策
・利水ダム等12ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、北海道、市町村、電力会社、土地改良区など)
・立地適正化計画の策定及び推進
・排水作業準備計画の更新
・自然地の保全
・水防拠点の整備 等
※今後、関係機関と連携し対策検討

北海道管理河川(一級河川指定区間)
牛朱別川、ペーパン川 等

■ソフト対策
・危機管理型水位計の設置・更新
・簡易型河川監視カメラの設置・更新
・ハザードマップの利用促進
(まるごとまちごとハザードマップ、3Dハザードマップ、ハザードマップ空白地の対応)
・マイ・タイムライン作成の促進
・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
・高齢者の避難行動の理解促進
・防災教育の徹底 等
※今後、関係機関と連携し対策検討



昭和56年8月低気圧・前線・台風被害家屋 約22,500戸(石狩川流域全体)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。